



「美しい山河を守る災害復旧基本方針」B表作成に当たっての留意事項 および平成10年度総合単価運用上の留意点（訂正版）について（通知）

技術基準の種類：積算
通知日：平成10年8月5日

事務連絡
平成10年8月5日

管 理 課 長
道 路 課 長
都 市 計 画 課 長
下 水 道 課 長
砂 防 利 水 課 長
各土木事務所長

様

河 川 課 長
（公印省略）

「美しい山河を守る災害復旧基本方針」B表作成に当たっての留意事項
および平成10年度総合単価運用上の留意点（訂正版）について（通知）

このことについて、建設省河川局防災・海岸課基準第一係から別添写しのとおり通知がありましたので、事業の実施にあたり下記事項に注意してください。
なお、別添資料について不明な点があれば、下記問い合わせ先までご連絡ください。

記

- 根固の施工幅は、河川環境、河床変動および護岸基礎工の安定、洗掘による影響を考慮すること。
- 環境ブロックについては、総単を設定していないので、経済比較の必要のある場合には、その現場ごとに積み上げを行うこと。
- コンクリートブロック工でブロック積のうち岩着タイプの場合は、別添写しにより運用すること。

○問い合わせ先 鳥取県土木部河川課防災係 佐藤、森川
TEL 0859-26-7381
FAX 0857-27-3765

事務連絡
平成10年8月5日

各市町村長 様

河 川 課 長
（公印省略）

「美しい山河を守る災害復旧基本方針」B表作成に当たっての留意事項
および平成10年度総合単価運用上の留意点（訂正版）について（通知）

このことについて、建設省河川局防災・海岸課基準第一係から別添写しのとおり通知がありましたので、事業の実施にあたり下記事項に注意してください。
なお、別添資料について不明な点があれば、下記問い合わせ先までご連絡ください。

記

- 根固の施工幅は、河川環境、河床変動および護岸基礎工の安定、洗掘による影響を考慮すること。
- 環境ブロックについては、総単を設定していないので、経済比較の必要のある場合には、その現場ごとに積み上げを行うこと。
- コンクリートブロック工でブロック積のうち岩着タイプの場合は、別添写しにより運用すること。

○ 問合せ先 鳥取県土木部河川課防災係 佐藤、森川
TEL 0859-26-7381
FAX 0857-27-3765

各県・政令市災害担当者 様

「美しい山河を守る災害復旧基本方針」 B表作成にあたっての留意事項

- (1) 根固の施工幅は、河川環境や局所的な河床洗掘などの河床変動等を考慮して、護岸基礎工の安定や洗掘による影響の緩和も考慮しながら根固幅を検討する。
- (2) 上記(1)の趣旨で根固を敷設し、十分な幅の根固工が設置される場合
($BW/H1 \geq 1$)においては、根固による洗掘への効果を考慮して以下によりB表を作成のこと。
「基本方針」P5-24のB表記入例のとおり、 $\alpha 2$ を考慮しない代表流速、設計流速等を記入する。
根固高価で洗掘による影響が緩和できるとして、最大洗掘深 $Z = 0$ とする。
赤書き、みえ消しで最大洗掘深の訂正(0にする)や $\alpha 2$ により補正した代表流速、設計流速等を記入する。
以上のように根固のある場合、ない場合ともB表1枚に記入する。
(別紙B表参照)
- (3) 上記(1)の趣旨により根固幅を考慮したものの、敷設幅が狭い根固工が設置される場合($BW/H1 < 1$)においては、「基本方針」P5-24のB表記入例のとおり記入し、 $\alpha 2 = 1.0$ として代表流速等を求める。
- (4) 根固工のタイプは、被災原因、河道特性、設計流速、自然環境、連続性、施工性、経済性等を総合的に勘案してコンクリートブロック系の根固ではなく、木工沈床や粗朶沈床等の根固で検討すること。

建設省河川局 防災・海岸課

代表流速算出における補正係数の考え方について(参考)

- | (条件) | (代表流速) | (流れの補正) |
|---|---|--|
| (1) 十分な幅の根固工が設置されている場合($BW/H1 \geq 1$) | $V0 = \alpha 1 \alpha 2 Vm$
($\alpha 2 = 0.9$) | $\alpha 1 = 1 + B/2R$ |
| (2) 根固工が設置されていない、あるいは敷設幅が狭い($BW/H1 < 1$)の場合 | $V0 = \alpha 1 \alpha 2 Vm$
($\alpha 2 = 1.0$) | $\alpha 1 = 1 + \frac{Z}{2H0} + B/2R$
(Z は $Z5$ を使用) |

注) $Z5$: 推定最大洗掘深(基本方針 5-5-4でいう最大洗掘深)

設計流速算定表 （ B 表）

			○ ○ 川						【作成例】			
			直線部			湾曲部			備 考			
河道諸元	位置		№1(左岸)	№2(左岸)	№3(左岸)	№4(左岸)	№5(左岸)	№6(左岸)				
	設計水位での川幅	[B (m)]				17	18	19	平面、横断面図			
	低水路幅	[b (m)]	13	13	13	15	16	17	平面、横断面図			
	曲率半径 (河道中心)	[R (m)]	-	-	-	80	80	80	平面			
	河道湾曲半径 (内岸側)	[r (m)]				73	72	72	平面			
	エネルギー勾配	[I e]	1/120	1/120	1/120	1/120	1/120	1/120	(5-5-2)			
	河床の代表粒径	[dR (m)]	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	(5-4-2)			
	左岸法勾配		0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	横断面図			
	右岸法勾配		0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	横断面図			
径 深	径深	[Rd (m)]	1.6	1.6	1.6	1.7	1.9	2.1	(5-5-2)			
設計水深	設計水位	[h (m)]	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0				
	現況平均河床高	[Z (m)]	0.9	1.0	1.0	0.8	0.5	0.3				
	設計水深	[Hd (m)]	2.1	2.0	2.0	2.2	2.5	2.7	(5-5-2)			
粗 度 係 数	各部粗度	高水敷部	[n1]							(5-4-3)		
		河床部	[n2]	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	(5-4-2)		
		左岸護岸部	[n3]	0.024	0.032	0.024	0.024	0.032	0.032	(5-4-4)		
		右岸護岸部	[n4]	0.032	0.032	0.032	0.032	0.032	0.032	#		
	潤 边	高水敷部	[S1]	0								
		河床部	[S2]	10.9	11.0	11.0	12.8	13.5	14.3			
		左岸護岸部	[S3]	2.3	2.2	2.2	2.5	2.8	3.0			
		右岸護岸部	[S4]	2.3	2.2	2.2	2.5	2.8	3.0			
		計	[S]	15.6	15.5	15.5	17.7	19.1	20.3			
	合成粗度係数	(n1^3/2 × S1)		0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000			
		(n2^3/2 × S2)		0.057	0.057	0.057	0.067	0.070	0.074			
		(n3^3/2 × S3)		0.009	0.013	0.008	0.009	0.016	0.017			
		(n4^3/2 × S4)		0.013	0.013	0.013	0.014	0.016	0.017			
		計		0.079	0.083	0.078	0.090	0.102	0.109			
	合成粗度係数	N	0.029	0.031	0.029	0.029	0.031	0.031	(5-4-1)			
平均流速 [Vm]	V = 1/n · Rd^2/3 · Ie^1/2		4.3	4.0	4.2	4.5	4.6	4.9	(5-4-2)			
最大洗堀深	直線部	現況最大洗堀深 (実測値)	[Zg]	0.5	0.5	0.5						
		低水路幅 ・ 設計水深比	[b /Hd]	6.2	6.5	6.5						
		設計水路 ・ 代表粒径比	[Hd/dR]									
		砂州波高 ・ 設計水深比	[Hs/Hd]									
		洗堀部の水深	[Hmaxs]									
		推定最大洗堀深 (計算値)	[Zs]									
		最大洗堀深	[Z]	0.5	0.5	0.5				(5-5-4)		
	湾曲部	現況最大洗堀深 (実測値)	[Zg]				0.8	1.0	1.2			
		低水路幅 ・ 河道湾曲半径比	[b /r]				0.4	0.4	0.4			
		洗堀部水深 ・ 設計水深比	[Hmax/Hd]				1.7	1.7	1.7			
		洗堀部の水深	[Hmax]				3.7	4.3	4.6			
		推定最大洗堀深 (計算値)	[Zs]				1.5	1.8	1.9			
		最大洗堀深	[Z]				0 1-5	0 1-8	0 1-9	(5-5-4)		
		補 正 係 数	直線部	固定床	α1 = 1							(5-5-3.1)
移動床	(Z /2Hd)			0.12	0.13	0.13						
	α1 = 1+(Z /2Hd)			1.12	1.13	1.13				(5-5-3.1)		
湾曲部	固定床		(b /2R)								(5-5-3.2)	
			α1 = 1+(b /2R)								(5-5-3.2)	
	外岸部		(Z /2Hd)				0 0-34	0 0-36	0 0-35			
			(b /2R)				0.09	1.10	0.11			
	移動床		α1 = 1+(b /2R)+(Z /2Hd)				1.09 1-43	1.10 1-46	1.11 1-46	(5-5-3.2)		
	内岸部		(b /2R)									
				α1 = 1+(b /2R)								(5-5-3.2)
	影響部		(Z /2Hd)									
			(b /2R)									
			α1 = 1+(b /2R)+(Z /2Hd)								(5-5-3.2)	
	根固工		bw/H1 1 → α2 = 0.9 bw/H1 < 1 → α2 = 1.0				0.9	0.9	0.9		(5-5-3.2)	
	α		採用補正係数	1.12	1.12	1.12	0.98 1-49	0.99 1-40	1.00 1-46			
代表流速 [V0]	V0 = α · Vm	4.8	4.5	4.6	4.4 6-4	4.6 6-8	4.9 7-1	(5-5-5)				
設計流速 V D = mean V0		4.6			4.6 7-9			(5-5-5)				
護岸構造選択の対象工法			カゴマット (多段) 、自然石 (縁) 環境型ブロック			自然石 (縁) 、環境型ブロック 根固工 (木工沈床) カゴマット			(多段)			

各県・政令市災害担当者 様

平成10年度総合単価運用上の留意点 (訂正版)

○ 今回、環境型ブロックについては種々のタイプがあり総単を設定していないので、現場で経済比較の必要のある場合には、その現場ごとに積み上げを行い比較を行うこと。

- コンクリートブロック工でブロック積工のうち岩着タイプの場合は、裏コン有、無しに関わらず下記により運用すること。

施工面積 S 、施工延長 L 、ブロック法長 $L1$ とした場合

- ・復旧工法の申請面積 $S = L \times L1$
- ・総単上での計算面積 $S1 = L \times (L1 - 0.5m)$

査定設計上の面積はあくまで S を使用して、金額計上時には $S1 \times$ 総単とする
(面積 S に対応する金額を $S1 \times$ 総単で計上する)

建設省河川局 防災・海岸課 基準第一係